

山梨県立博物館総合評価報告書

— 開館 10 周年度目までにおける評価結果 —
Evaluation report of the Yamanashi Prefectural Museum



Evaluation report of the Yamanashi Prefectural Museum

山梨県立博物館総合評価報告書



はじめに

山梨県立博物館は、開館以来の基本テーマである「山梨の自然と人」を活動の基本におき、「交流」のセンターを目指し、調査・研究、展示活動などの博物館の事業や運営に努めてまいりました。おかげをもちまして、平成26年度には開館以来の総利用者数が100万人に達し、平成27年度には開館10周年という大きな節目の年を迎えることができました。

当館では開館以来、博物館の事業・運営に対しての課題を検証し、より良い博物館を目指し、問題点を改善するために、独自の評価制度を導入して運用してまいりました。

評価制度の導入や、開館5周年年度経過後の制度見直しにあたっては、県民各界からの代表による「みんなで作る博物館協議会」や有識者からなる「運営委員会」の皆様のご協力を得ながら進めてまいりました。実際の評価にあたっては、NPOと協働して実施する利用者参画型の評価手法である「通信簿ツアー」を毎年開催し、県民参画型の博物館を目指す当館の基本理念や利用者の声を活かした評価制度となっております。

本書は、開館6周年年度（平成23年度）から10周年年度（平成27年度）までの当館の事業や運営状況などを総括し、様々な立場の皆様によって評価された結果を取りまとめたものです。本書で指摘された成果についてはこれを発展させ、また課題とされた点については改善に努めてまいりたいと思います。今後もより良い山梨県立博物館を実現していくため、皆さまより忌憚ないご意見をお寄せいただけますようよろしくお願い申し上げます。

山梨県立博物館

館長 平川 南

目次

はじめに

第 I 章 山梨県立博物館の評価制度

第 1 節 評価制度の検討経緯	1
① 評価制度の必要性	1
② みんなでつくる博物館協議会（みんつく）の設置と評価制度の策定	1
③ 5 周年度目までの総合評価と第 2 期評価制度の策定	2
第 2 節 県立博物館の評価制度	3
① 県立博物館の使命	3
② 「県立博物館の使命」実現のための評価制度	3

第 II 章 開館 10 周年度目までの評価結果

第 1 節 評価のまとめ	11
第 2 節 「数値評価の達成率」による評価	12
第 3 節 「各活動成果に関する数値評価・自己診断」による評価	15
第 4 節 「通信簿ツアー」による評価	22
第 5 節 総合評価と今後の課題	23

凡例

- ・各事業の経緯・方針・関連法規等については『平成 17 年度山梨県立博物館年報』を参照。
- ・年度ごとにおける各事業の詳細な実施結果については、各年度の『年報』を参照。
- ・各種委員等の名簿における勤務先・役職等については、全て当時におけるものである。
- ・原則として各種名簿の順序は 50 音順である。
- ・敬称は略している。
- ・「県立博物館」・「当館」と表記されているものは、全て山梨県立博物館のことを指す。

（表紙）常設展示「城下町の賑わい」のジオラマの人形

第 I 章 山梨県立博物館の評価制度

第 1 節 評価制度の検討経緯

① 評価制度の必要性

山梨県立博物館（以下「県立博物館」）が県民の生涯学習の拠点として開かれた博物館活動を行っていくためには、博物館の活動内容について利用者からの視線を採り入れることが必要である。

また、博物館の活動が独善に陥ることなく、県民へのサービス機能を強化していくには、利用者の視点から博物館の事業活動を適切に評価し、その結果を運営改善に結びつけていく体制づくりが求められている。

以上の理由から、県立博物館では評価制度を導入することとした。

② みんなでつくる博物館協議会（みんつく）の設置と評価制度の策定

県立博物館では、県内外の利用者から親しまれ、高く評価される博物館であることを目指し、「みんなで作る博物館協議会（以下「みんつく」）という第三者機関を平成 15 年（2003）4 月 18 日に設置した。この「みんつく」のメンバーは、県内の教育・経済・観光・文化団体などさまざまな分野に関わる県民の代表から構成され、利用者の視点からよりよい博物館づくりに向け、開館前段階から会議を重ね、数々の県立博物館の運営や事業に関する改善を実現し現在に至っている。

「みんつく」において、平成 17 年度から評価制度の検討が開始され、さらに評価制度を具体的かつ詳細に検討するための「みんつく」内に評価小委員会を設け、小委員会の検討結果に基づき、「みんつく」本会議での検討を行うこととした。平成 19 年度に「みんつく」の評価制度案が取りまとめられ、運営委員会での付議および協議、館長決裁を経て、平成 19 年 10 月 10 日に、県立博物館の評価制度が施行されることとなった。なお、協議過程については、『山梨県立博物館総合評価報告書—開館 5 周年度目までにおける評価結果—』を参照いただきたい。

【表 1】 「みんつく」委員及び評価小委員名簿

氏名	勤務先・役職等	評価小委員会委員
秋山俊一	山梨連合教育会会長	
牛澤正博	山梨県農業協同組合中央会専務理事	
小澤龍一	(財) やまなし文化学習協会生涯学習推進センター所長	○
数野妙子	甲府市立琢美小学校教諭	○
北村 誠	山梨県文化協会連合会会長	
栗田真司	山梨大学教育人間科学部助教授	
齋藤康彦	山梨郷土研究会理事	
柴田彩子	長期計画審議会	○
新海一男	山梨県中小企業団体中央会常務理事	
谷口一夫	甲斐黄金村・湯之奥金山博物館館長	○
中村德行	富士五湖観光連盟副会長	
八田知子	石和温泉観光協会副理事	
古屋栄和	社会福祉法人山梨県社会福祉協議会会長	
古屋弘和	長期計画審議会	
山本育夫	特定非営利活動法人つなぐ理事長	○

※ 委員の任期は平成 17 年 9 月 1 日から平成 19 年 8 月 31 日までである。

③ 5 周年度目までの総合評価と第 2 期評価制度の策定

第 1 期の評価制度が施行され、その評価対象期間は平成 22 年度（開館 5 周年度目）までとされ、評価制度と状況については、毎年刊行される年報の第 I 章に掲載された。そして、5 年度間の評価の結果は、平成 23 年度に刊行された『山梨県立博物館総合評価報告書－開館 5 周年度目までにおける評価結果－』にまとめて公開した。

第 1 期評価制度の結果をふまえて、平成 24 年度は、開館 6 周年度目から 10 周年度目までの新たな評価制度（以下「第 2 期評価制度」という）を「みんつく」で協議し、運営委員会にも諮った上で、平成 24 年 12 月 25 日に策定した。

第 2 期評価制度では、県立博物館の事業・活動等が現状で停滞することなく、将来に向け、利用者ニーズや調査・研究の進展に応じて成長していくことをめざし、第 1 期評価制度で掲げた使命 1・使命 2 という県立博物館の使命に使命 3 を新たに加えた（第 2 節参照）。

また、それぞれの使命に対応して別表「平成 23 年度から平成 27 年度までの評価項目」に掲げた評価項目を設けるとともに、第 1 期評価制度の結果をもとにして別表「平成 23 年度から平成 27 年度までの各活動分野における数値評価の目標値」に掲げた数値目標を定めた。本書は、この第 2 期評価制度に基づいて、平成 23 年度から平成 27 年度までの運営実績の検証結果、運営委員会による総合評価を掲載するものである。

第 2 節 県立博物館の評価制度

① 県立博物館の使命

使命 1

■山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史」を学ぶ場を目指します。

山梨県の歴史の特色は豊かで多様な自然に生まれた人々の個性あふれる暮らしの歴史である、とまとめられます。だからこそ「山梨の自然と人との関わりの歴史」を学ぶことは、現在はもとより未来へ開く扉の鍵を探ることにつながるのです。

山梨県立博物館ではその一例として、本県の特色ある生業や富士山への向き合い方、武田氏の動向等々について総合的に資料の収集・調査・研究を行います。そして、その最新の成果を「山梨県の精神の拠り所」として絶えず利用者の皆様に問いかけ、共に考え続けます。

使命 2

■山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。

山梨県は、周囲の高い山々によって閉じられた地域という印象を持たれています。ですが、四方を高い山々に囲まれた地域だからこそ、山梨の先人達は昔から活発な「交流」を求めてきました。

こうした歴史にふさわしく、山梨県立博物館は、県内各地の様々な文化施設、史跡・自然をはじめ、県内外の多くの皆様と活発に交流を行います。「交流」のセンターとして、当館を起点に県内各地へと多くの人々の誘導を図り、本県の活性化に絶えず努めます。

使命 3

■山梨県立博物館は「成長する博物館」を目指します。

山梨県立博物館は、最新の調査・研究成果を展示やイベント内容等に反映させ、絶えず新しい情報の発信に努めます。

また、社会情勢の変化や、利用者の知的関心、学習意欲の高まりに対応して、歴史・文化の視点に立った新たな価値観や未来像を、展示等をとおして考えてもらう場となることを目指します。

特に、山梨県の県立博物館として、農林業・伝統産業・観光や水資源・過疎化等、現在の山梨が抱える様々な課題を乗り越えていくために、県民の皆様とともに未来の山梨のあり方を考え、連携を進めます。

これらをとおして、山梨県立博物館は、その事業・活動等が広く県民の皆様とともに成長して、全国の目標となるような博物館を目指します。

② 「県立博物館の使命」実現のための評価制度

県立博物館の使命を実現させるためには、評価制度の基本方針として、次の 3 点を満たすものとする。

- ・ 県立博物館の活動総体を県内外に周知し、館の運営をより良い方向へと押し進めるための評価であることを第一の目標とする。
- ・ 評価にあたっては県民参画型の方法を導入し、また、外部有識者など第三者を交えた客観性を保った評価方法とする。
- ・ 館の運営の実情に合わせ、柔軟に変化・対応させていく、いわば「成長する評価」とする。

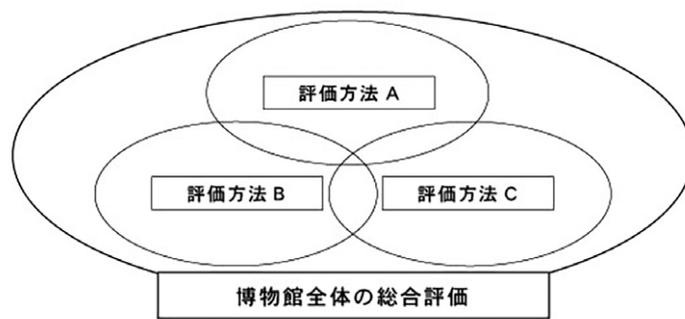
■評価方法

県立博物館の評価制度は、【A 数値評価】、【B 自己診断】、【C 通信簿ツアー】という複数の評価方法を導入し、それぞれの方法の長所と短所を補いあうものとする。開館 6 周年度目（平成 23 年度）から 10 周年度（平成 27 年度）までの運営実績を、評価方法 A・B・C によって評価を行い、その結果を踏まえた総合評価を実施する。それぞれの評価方法の基準や担保される客観性、方法間の関係性については次の表のとおりである。

【表 2】 評価体系表

評価方法	評価主体	評価対象	目標達成度を測る基準	評価の客観性	改善の方向
A 数値評価	博物館	数値化可能な項目	目標数値に対する実際の達成度	数値そのものが客観的指標	目標数値
B 自己診断		数値化にならない項目	目標達成に向けて何を行ったか一覧化	博物館による自己点検。運営委員会からの意見がある場合はそれを記載	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施
C 通信簿ツアー	利用者		利用者から見た評価点と改善点の一覧化	利用者の立場からの客観評価	利用者自身によって改善
総合評価	運営委員会	A～Cの結果に基づき、総合的に評価		県民の立場から、また学術的立場から運営委員会において客観的に評価	運営委員会の意見を踏まえた改善策の実施

【図 1】 評価体系図



※評価項目によっては、目標達成のために、複数の評価方法によって検討した方がより効果的な項目もある。

【A 数値評価】

県立博物館の事業について、その実績を数値化し得る評価項目に関しては、数値目標をたて、その達成を目指す。年度ごとにその成果を『年報』に掲載（公開）する。県立博物館における各活動分野の数値目標をまとめたものが図 2（6 ページ）である。

なお、目標数値については、次項「数値評価の目標値」を参照。

【B 自己診断】

県立博物館の事業について、数値化し得ない評価項目については、年度ごとにその成果を『年報』に掲載（公開）する。

【C 通信簿ツアー】

博物館の設置者・運営者以外の第三者によって評価項目の作成と評価の実施を行う方法。例年、県民参画（NPO 委託）事業として、利用者が県立博物館の事業や運営に関する評価を記述する「通信簿ツアー」を実施している。詳細は各年度『年報』の第 I 編第 2 章を参照。

【総合評価】

開館 10 周年年度目における評価方法 A・B・C による評価結果を集約し、運営委員会において運営全体における達成点と課題点についてとりまとめたものを総合評価報告書として公開するものとする。

総合評価を運営委員会が実施することについては、運営委員会が第三者の外部有識者によるもので客観的かつ学術的に県立博物館を評価し得ること、かつ県内各界の県民の代表者によって構成される「みんつく」委員長が運営委員に含まれることから、県立博物館の事業や運営について総合的な評価を行い得ると考えられるためである。

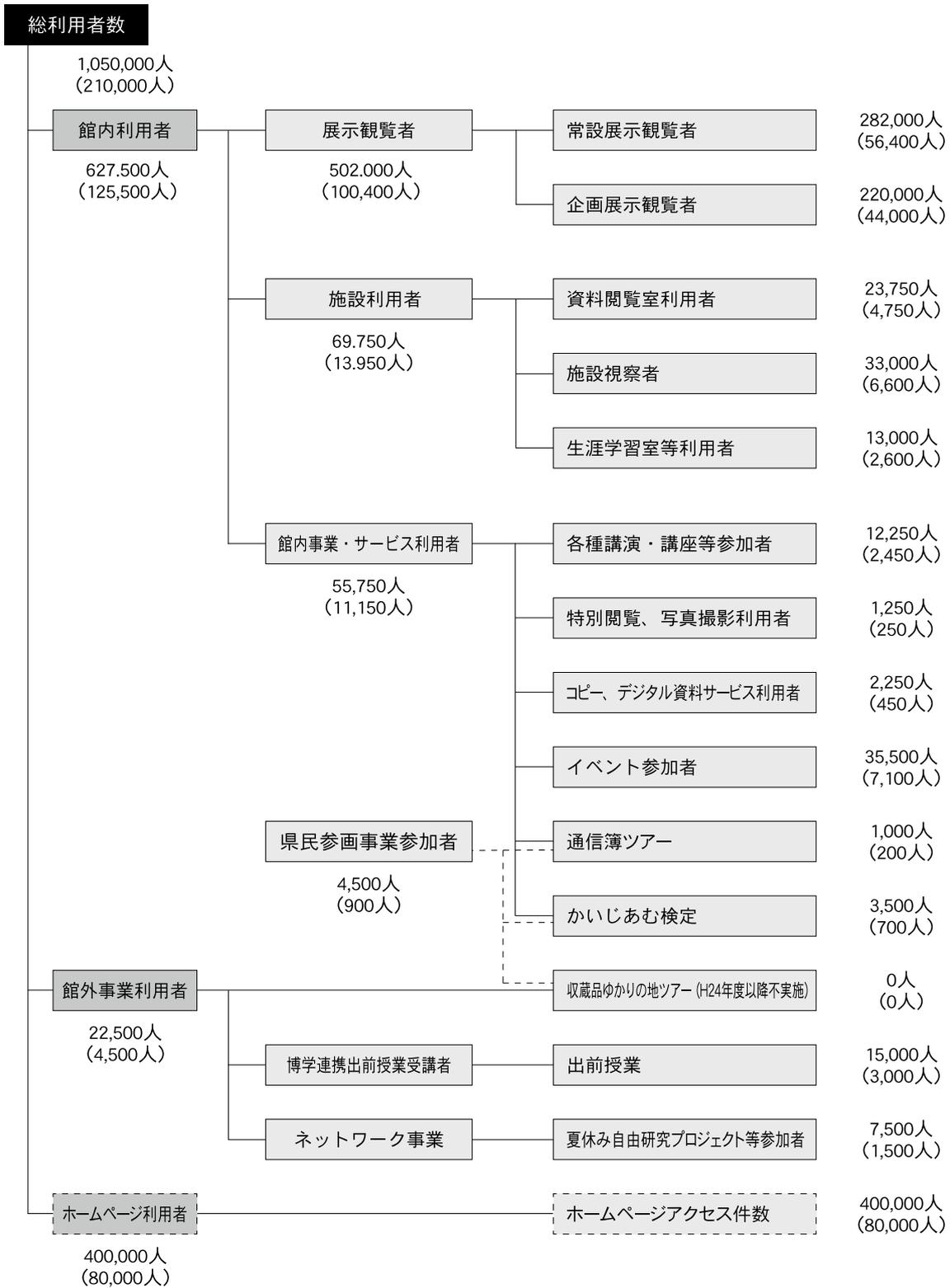
総合評価の対象期間を 5 年間としていることについては、県立博物館の主要な活動分野である調査・研究の進展と、その成果が展示として実現されるには一定程度の時間を必要とすることなどを理由に設定された第 1 期評価を踏襲したものである。

■数値評価の目標値

平成 24 年度の「みんつく」評価小委員会において、他県立館実績値比 9 割（人口や館の規模の比較では 6 割なので、高めの数値設定）を目標とした開館 1～5 年度の数値評価目標値をもとに検討し、次ページの図 2 のとおりに設定した。なお、開館 1～5 年度の数値評価目標値については、『山梨県立博物館総合評価報告書－開館 5 周年度目までにおける評価結果－』5 ページを参照。

【図 2】 県立博物館開館 10 周年度目における各活動分野の目標値

○「総利用者数」とは、当館の施設、提供するサービスを利用した者および当館の事業活動に参加した全ての利用者の統計である。



※ 1 数字…平成23年度（開館6周年度）から平成27年度（開館10周年度）までの目標値

※ 2 () 内の数字…平成23年度から平成27年度までの5年間における単年度の新規目標値

なお、県民参画事業は平成 19 年度で枠組みが変更されているため、平成 18 年度以前の実績は、「交流拠点形成事業」分は「かいじあむ検定」に、「わいわいミュージアム」分は「通信簿ツアー」に含むものとしている。

【表 3】 評価項目

	使命1	使命2	使命3
	使命1に対応した活動目標	使命2に対応した活動目標	使命3に対応した活動目標
	活動目標に対応した評価項目	活動目標に対応した評価項目	活動目標に対応した評価項目
山梨県立博物館の使命	使命1：山梨県立博物館は「山梨の自然と人との関わりの歴史を学ぶこと」を目指します。	使命2：山梨県立博物館は「交流」のセンターを目指します。	使命3：山梨県立博物館は「成長する博物館」を目指します。
(1) 運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービスについて	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館が整備されて良かったと思われ、思われる博物館づくりを目指して、当館が提供するあらゆるサービスの利用者数の増加に努めます。具体的には開館6周年目から開館10周年目までに1,050,000人の総利用者数を目指します。 山梨県立博物館がどのような使命を持って整備されたのかを分かりやすく明示し、職員・利用者ともに共通の理解を得られるように努めます。 博物館の使命がどの程度達成できたのかを館内外に明らかにするために、利用者の視点に立った活動目標を設定し、その実現に向けて最善の努力をします。 博物館が提供するあらゆるサービスについて多くの利用者に御満足いただけるよう、絶えず改善し続ける博物館づくりに館に携わる全ての人々が一丸となって努めます。そのために、常に博物館全体の活動について自己点検を行い、また利用者からの評価の声を受け入れ、その結果を公開します。 NPOとの協働などをとおして、広く県民が参画できる事業活動を推進し、県立博物館及び山梨県への親しみや関心が深められるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 総利用者数（評価方法A） 館員及び利用者を対象として、博物館使命がどの程度認知されているのかの調査（評価方法C） 利用者の視点に立った目標を設定しているか？（評価方法B） 目標の達成状況については、自己及び他者評価を行い、その結果を公開しているか？（評価方法B・C） 県民参画事業の参加者数（評価方法A） 	
(2) 調査・研究について	<ul style="list-style-type: none"> 「山梨の自然と人との関わりの歴史」をテーマとした調査・研究を精力的に実施し続けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査・研究の最新成果を展示や諸講座等の機会をとおして積極的に公開し、利用者の知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学術研究機関としての博物館の魅力を高めるために、外部資金の導入などによって積極的に調査・研究を行い、その成果を論文や研究発表などをとおして、広く社会に還元します。また、その実現に向けて県内外の人々との共同調査・研究を積極的に推進します。
(3) 資料の収集、保存及び活用について	<ul style="list-style-type: none"> 資料保存機関としての博物館という魅力を高めるために、「山梨の自然と人との関わりの歴史」を明らかにする上で必要な資料の収集・保存に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集及び保管・調査資料の利用体制の充実化をはかります。これら資料の目録化（データベース化）を進め、館内外の人々にとって共に積極的な活用が可能となるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した資料の活用を図り、展示やホームページなどをとおして、新たな資料情報を積極的に公開します。
(4) 展示について	<ul style="list-style-type: none"> 展示をとおして魅力あふれる「山梨の自然と人との関わりの歴史」像を積極的に多くの人々に向けて発信し続けます。具体的目標としては、開館6周年目から開館10周年目までに502,000人の利用者数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場との連携を深め、子ども達が楽しみながら山梨の歴史や文化を学ぶことのできる展示を作り続けます。具体的には開館6周年目から開館10周年目までに41,000人の学校利用者数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズや調査・研究の進展に対応して、企画展の開催や、年間をとおした常設展示の展示替えを行います。
(5) 企画交流活動について	<ul style="list-style-type: none"> 県内外に対し、「山梨の自然と人との関わりの歴史」像の浸透に資する効果的な企画交流活動の立案・実行に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の現場と密接に交流し、博学連携の強化に努めます。 県内各地の文化施設・史跡・自然と密接に連携し、多くの利用者を県内各地へと誘導する企画交流活動の立案・実行に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに応じて、企画交流活動の内容の見直しや新規の立案に努めます。 大学や図書館、研究団体など、新たな施設・団体との連携の強化に努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の利用者数（評価方法A） 企画展利用者数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館への学校利用件数及び参加者数（評価方法A） 展示をわかりやすく解説するワークシートなどを作成しているか？（評価方法CまたはB） 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の印象に関わるアンケート調査（評価方法CまたはB） 企画内容や展示手法の満足度に関するアンケート調査（評価方法CまたはB） 常設展示における年間の展示資料点数（どれだけ展示替えを行っているのか？）（評価方法A） 常設展示の来館者数増加に向けた取り組み（評価方法B）
	<ul style="list-style-type: none"> 年間における企画交流活動数及びその参加者数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 博学連携に関わる取り組み（評価方法B） 出前授業等の件数及び参加者数（評価方法A） 貸出用キットの利用件数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 企画交流活動に関わる取り組み（評価方法B） 各種連携事業を実施するにあたりどのような工夫を行っているか？（例えば、大学・図書館との連携やミュージアム甲斐ネットワークなど）（評価方法B） 地域インデックスの活用策を企画・実行したか？（評価方法B）

(6) 施設の整備・管理について	<ul style="list-style-type: none"> 山梨の歴史や文化について、人々が快適に学ぶ環境を整えるために、人にとっても安全かつ快適な施設・整備の管理に努めます。 魅力あふれる「山梨の自然と人との関わり」の歴史を知ることが出来る貴重な資料を永く後世に伝えていくために、資料にとって安全かつ快適な施設・設備の管理に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への施設開放（例えば生涯学習室の貸し出しなど）を積極的に行うことで、県民に親しまれる博物館づくりを推進し、開館6周年目から開館10周年目までに69,750人の利用者数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のニーズに応じ、未来に向けた新たな博物館のあり方について検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 地震・火災等の緊急事態に対して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） 緊急の傷病者への対応に関して、職員の研修をはじめとした対応を行っているのか？（評価方法B） バリアフリー対策を行っているか？（評価方法B） 資料保存について措置を講じているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に対する施設開放件数及び利用者数（例えば、生涯学習室の貸し出しなど）（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> 国宝・重要文化財を展示する公開承認施設に指定されているか？（評価方法B） 展示施設の新規整備やその活用が図られているか？（例えば、体験型展示の充実など）（評価方法B）
(7) 情報の発信と公開について	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が「山梨の自然と人との関わり」の歴史を学ぶことについて支援することに努め、レファレンスをおし開館6周年目から開館10周年目までに3,000人が知的好奇心を満足できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県立博物館の活動全般について、県内外の人々に対して積極的にPR活動をするように努め、例えばHPをおした場合は開館6周年目から開館10周年目までに400,000件のアクセス数を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを使用した博物館通信の送信や館外におけるPRなど、新たな広報活動の取り組みに努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス対応件数（評価方法A） 	<ul style="list-style-type: none"> HPアクセス数（評価方法A） HPの更新や利用者ニーズに応じた内容の検討を行っているのか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> どのような情報をどのような媒体で情報発信しているのか一覧表化がなされているか？（評価方法B）
(8) 市民参画について	<ul style="list-style-type: none"> NPOやボランティアなどとの協力を得た事業活動を実施し、協働事業では開館6周年目から開館10周年目までに4,500人と交流できるように努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の視点から博物館の評価を行い、その成果を博物館の成長や運営改善に向けて反映するよう努めます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> NPOや協力会（ボランティア）との協働事業開催件数及び参加者数（評価方法A） 協力会（ボランティア）の登録者数（評価方法A） 協力会（ボランティア）ではどのような活動を実施したのか一覧表化がなされているか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者による博物館評価を実施し、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法BまたはC） 	
(9) 組織・人員について	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上ができる環境整備に努めます。 第三者機関の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映するよう努めます。
	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者機関（運営委員会、みんなでつくる博物館協議会、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B） 	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上に関わる研修を実施したか？（評価方法B） 第三者機関（運営委員会、みんなでつくる博物館協議会、資料情報委員会など）の意見を積極的に受け入れ、その結果を館の運営に反映できるよう工夫がなされたか？（評価方法B）
(10) 外部支援と連携について	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に質の高い博物館活動に資するよう、外部支援体制の導入に努めるとともに、地域連携を図ります。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか？（評価方法B） 山梨県内外における歴史・民俗系博物館等との連携を図っているか？（評価方法B） 文化財レスキューなど、県立博物館が地域社会を支援する体制の整備に努めたか？（評価方法B） 		

■評価項目

県立博物館のすべての事業活動は「県立博物館の使命」の実現に向けて実施される。事業活動の全体と各業務間の関係をあらわしたのが図3（7ページ）である。図3のそれぞれの事業活動は使命の実現に向けて活動目標（目指すところ）が定められ、その達成度を測るために評価項目・評価方法が設定されている。それぞれの対応関係を示したものが表3（8～9ページ）である。

まず、表3の縦軸方向は、県立博物館が行う事業・運営活動の一覧であり、(1) 運営（ミュージアムマネジメントおよびミュージアムサービス）、(2) 調査・研究、(3) 資料の収集・保管・活用、(4) 展示、(5) 企画交流事業、(6) 施設の整備・管理、(7) 情報の発信と公開、(8) 県民参画、(9) 組織・人員、(10) 外部支援、という10の分野から構成されている。これら10項目の事業・運営活動ごとに、3つの使命に対応した活動目標（上段）と評価項目（下段）が設定されている。

以上の活動目標と評価項目の結果を総合的に分析・評価することで、5年間の「県立博物館の使命」の達成度を測る指標とする。

■評価結果の公開

評価方法 A～C についての年度ごとの実績については、県立博物館で集計したうえで、各年度の『年報』において掲載（公開）する。

総合評価については、数値評価の目標として設定した開館10周年年度（平成27年度）までの実績について、平成28年度に運営委員会において総合的に評価を行い、評価報告書（本書）として刊行するものとする。

以上のとおり、県立博物館は事業活動全般にわたって恒常的に自己点検を実施し、外部からの評価を採り入れることで、県立博物館の活動全体を利用者目線で改善し、より良い方向へと推し進めていく評価活動を行っていくものとする。

第Ⅱ章 開館10周年年度目までの評価結果

第1節 評価のまとめ

■運営委員会での検討

第Ⅰ章第2節で述べた評価制度に基づき、開館10周年年度目までの実績と課題をまとめ、平成29年2月17日（金）の平成28年度第3回（通算第36回）運営委員会に付議した。当該運営委員会の委員名簿は表4のとおりである。

【表4】運営委員会委員名簿

氏名	勤務先・役職等
小澤 龍一（副委員長）※欠席	（財）やまなし文化学習協会山梨県生涯学習推進センター前所長 みんなでつくる博物館協議会委員長
清雲 俊元（委員長）	山梨郷土研究会理事長
五味 文彦	放送大学教授 東京大学名誉教授
末木 健	山梨県文化財保護審議会委員 中央市豊富郷土資料館長
早川 源	公益財団法人 山梨県総合研究所副理事長
守屋 正彦	筑波大学教授

次節以降に述べるのは、上記運営委員会において討議された評価によって明らかになった当館の達成点と課題についてである。この結果については、館の運営上や事業計画上に活用していくこととし、課題とされた点については、早急に改善策を検討し、適切な博物館運営に努めていきたい。

■「表2 評価体系表」との対応

本章各節に掲げる評価結果と表2（4ページ）における各評価方法との対応関係は次のとおりである。

【A 数値評価】

本章第2節「数値評価の達成率」による評価（12ページ～14ページ）

【A 数値評価およびB 自己診断】

本章第3節「各活動成果に関する数値評価・自己診断」による評価（15ページ～21ページ）

【C 通信簿ツアー】

本章第4節「通信簿ツアー」による評価（22ページ）

【総合評価】

本章第5節 総合評価と今後の課題（23ページ～24ページ）

■各年における事業活動の詳細

第Ⅰ章「評価結果の公開」（10ページ）で触れたように、各年度の実績の詳細については、当該年度の『年報』に掲載（公開）しているので、ご参照いただきたい。次節以降の評価は平成23年度から27年度までの『年報』に掲載されたデータを集計したものである。

なお、各年度の『年報』は当館ホームページに掲載されているPDFデータによって閲覧することも可能となっている。

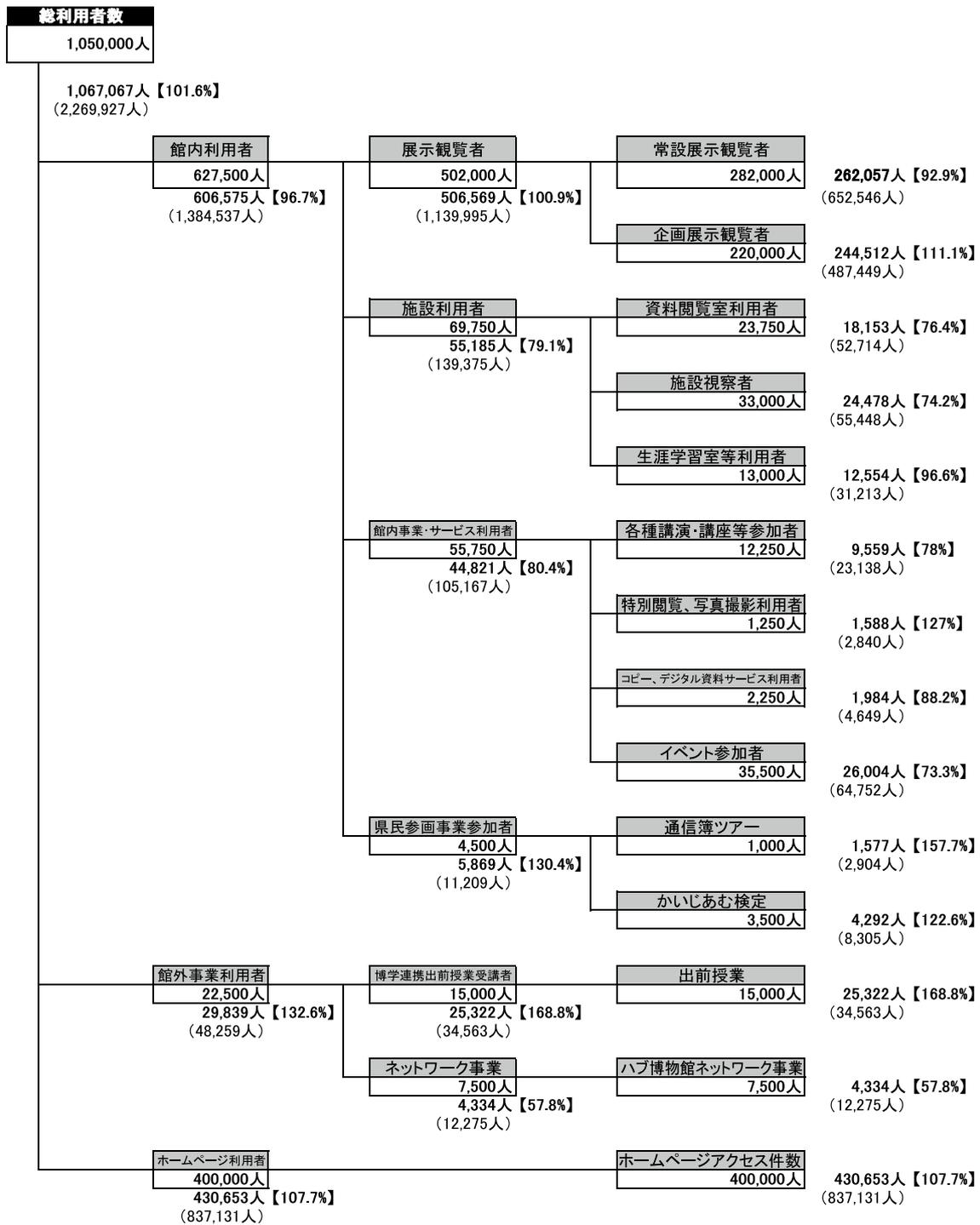
※『年報』掲載ページ URL http://www.museum.pref.yamanashi.jp/2nd_news.htm

第2節 「数値評価の達成率」による評価

■各活動分野の実績値

図2(●ページ)に掲げた目標値に対する実績をあらわしたのが次の図4、各年度における月ごとの実績値をまとめたのが次ページ以降の表5である。

【表5】 県立博物館開館6周年年度目から10周年年度目までの各活動分野における目標値と達成率



※枠内太字は平成23年度から27年度の5年間の目標値、枠外太字は当該期間の実績値

※()内の数値は平成17年度分から平成27年度分までの実績値の総計

※【 】内の数値は平成23年度から27年度の5年間の達成率

※「かいじあむ検定」の数値には、平成23年度まで実施の「収蔵品ゆかりの地ツアー」の実績値(通算1,421人、平成23年度183人)を含む

【表6】 県立博物館開館6周年年度目から10周年年度目までの各活動分野における目標値と達成率

・開館6年度目（平成23年度）から10年度目（平成27年度）までの年度別統計

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)													館外利用者						
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)					県民参加事業 取組品ゆかり の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ハブ博物館 ネットワーク 事業	ホームページ 利用者			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別観覧・ 写真撮影等 利用者	コピーデジタル 資料サービス利用 者	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいいび 検定									
平成17年度 ～22年度計	1,202,860	777,962	633,426	390,489	242,937	84,190	34,561	30,970	18,659	60,346	13,579	1,252	2,665	38,748	1,327	2,775	18,420	1,238	9,241	7,941	406,476
平成23年度	200,843	112,026	90,090	49,858	40,232	12,558	3,354	6,800	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	4,658	183	3,721	754	84,159
平成24年度	200,181	107,246	86,695	49,341	37,354	11,120	2,983	4,769	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	7,110	0	6,077	1,033	85,825
平成25年度	213,116	121,898	101,746	57,860	43,886	10,900	4,067	4,295	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	7,220	0	6,350	870	83,998
平成26年度	200,624	109,888	92,621	47,119	45,502	9,334	3,609	3,373	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	0	4,740	808	85,188
平成27年度	252,303	155,517	135,417	57,879	77,538	11,273	4,140	5,241	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	5,303	0	4,434	869	91,483
平成23年度 ～27年度計	1,067,067	606,575	506,569	262,057	244,512	55,185	18,153	24,478	12,554	44,821	9,559	1,588	1,984	26,004	1,577	4,109	29,839	183	25,322	4,334	430,653
計	2,269,927	1,384,537	1,139,995	652,546	487,449	139,375	52,714	55,448	31,213	105,167	23,138	2,840	4,649	64,752	2,904	6,884	48,259	1,421	34,563	12,275	837,131

・年度ごとの月別実績

①平成23年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)													館外利用者						
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)					県民参加事業 取組品ゆかり の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ハブ博物館 ネットワーク 事業	ホームページ 利用者			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別観覧・ 写真撮影等 利用者	コピーデジタル 資料サービス利用 者	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいいび 検定									
4月	17,603	10,194	8,950	4,475	993	309	400	284	251	158	27	28	38	0	0	0	0	0	0	0	7,409
5月	19,596	11,719	9,750	6,296	3,454	776	425	237	114	1,193	137	17	39	1,000	0	0	245	245	0	0	7,632
6月	11,688	4,697	3,098	3,098	0	1,307	248	805	254	292	73	26	26	167	0	0	441	441	0	0	6,550
7月	21,831	12,524	9,895	4,785	5,110	2,088	366	1,391	331	541	129	25	38	119	0	230	1,045	427	0	618	8,262
8月	31,307	21,500	17,739	7,316	10,423	1,620	473	947	200	2,141	369	28	47	1,258	166	273	180	152	0	28	9,627
9月	11,133	4,025	2,985	2,985	0	513	193	212	108	527	450	27	22	28	0	0	151	151	0	0	6,957
10月	19,216	11,745	9,810	5,680	4,130	1,015	270	567	178	920	445	19	42	98	0	316	520	480	40	0	6,951
11月	21,188	14,126	11,704	5,567	6,137	1,315	276	833	206	1,107	340	20	28	719	0	0	457	424	33	0	6,605
12月	6,173	1,547	1,100	1,100	0	376	114	184	78	71	0	11	20	40	0	0	97	97	0	0	4,529
1月	11,257	4,272	2,772	2,289	483	414	203	112	99	1,086	132	19	36	600	0	299	452	344	0	108	6,533
2月	14,641	7,412	5,628	2,814	2,814	1,302	219	726	357	482	111	30	44	297	0	0	612	502	110	0	6,617
3月	15,210	8,265	6,659	3,453	3,206	839	258	386	195	767	129	27	32	579	0	0	458	458	0	0	6,487
計	200,843	112,026	90,090	49,858	40,232	12,558	3,354	6,800	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	4,658	183	3,721	754	84,159

②平成24年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)													館外利用者						
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)					県民参加事業 取組品ゆかり の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ハブ博物館 ネットワーク 事業	ホームページ 利用者			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別観覧・ 写真撮影等 利用者	コピーデジタル 資料サービス利用 者	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいいび 検定									
4月	17,414	9,200	8,115	3,833	4,282	769	249	454	66	316	193	20	37	66	0	0	240	0	240	0	7,974
5月	17,093	9,021	7,266	4,981	2,285	942	277	363	302	813	125	21	23	644	0	0	504	0	504	0	7,568
6月	12,001	4,974	3,824	3,824	0	810	216	224	370	340	179	17	30	114	0	0	441	0	441	0	6,586
7月	17,106	8,118	6,442	3,570	2,872	1,157	229	384	544	519	359	39	40	81	0	0	1,294	0	452	842	7,694
8月	35,972	24,888	20,261	9,082	11,179	2,140	577	1,344	219	2,487	161	24	44	1,855	183	220	314	0	123	191	10,770
9月	10,945	3,904	3,433	2,583	850	251	132	70	49	220	134	24	23	39	0	0	84	0	84	0	6,957
10月	18,471	10,195	9,368	5,284	4,084	563	187	293	83	264	155	22	38	49	0	0	901	0	901	0	7,375
11月	18,644	11,011	8,819	4,461	4,358	1,185	218	450	517	1,007	325	25	42	615	0	0	817	0	817	0	6,816
12月	6,439	1,740	1,356	962	394	295	84	85	126	89	0	19	20	50	0	0	323	0	323	0	4,376
1月	12,243	5,422	4,840	2,840	0	827	207	354	266	1,755	553	19	38	600	0	545	450	0	450	0	6,371
2月	16,982	9,649	7,981	4,137	3,844	1,063	299	268	496	605	103	37	63	288	0	114	1,075	0	1,075	0	6,258
3月	16,871	9,124	6,990	3,784	3,206	1,118	308	480	330	1,016	716	39	29	232	0	0	667	0	667	0	7,080
計	200,181	107,246	86,695	49,341	37,354	11,120	2,983	4,769	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	7,110	0	6,077	1,033	85,825

③平成25年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)													館外利用者						
		展示利用者 (a)				施設利用者 (b)				館内事業・サービス利用者 (c)					県民参加事業 取組品ゆかり の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ハブ博物館 ネットワーク 事業	ホームページ 利用者			
		常設展示 (発券数)	企画展示 (発券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者 利用者	生涯学習室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別観覧・ 写真撮影等 利用者	コピーデジタル 資料サービス利用 者	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいいび 検定									
4月	11,994	5,090	4,266	2,200	2,066	560	172	305	83	264	128	40	36	60	0	0	460	0	460	0	6,444
5月	17,108	9,221	7,542	4,585	2,957	818	255	271	292	861	212	49	50	550	0	0	423	0	423	0	7,464
6月	19,877	10,502	8,466	8,466	0	991	515	276	200	1,045	401	60	42	542	0	0	427	0	427	0	8,948
7月	31,969	19,359	16,771	10,215	6,556	1,933	858	705	370	655	99	49	52	455	0	0	1,431	0	561	870	11,179
8月	50,679	37,121	31,974	11,447	20,527	2,482	1,008	1,229	245	2,665	151	39	73	1,739	228	435	213	0	213	0	13,345
9月	10,404	4,604	4,041	2,872	1,169	397	206	94	97	166	31	33	47	55	0	0	163	0	163	0	5,637
10月	14,409	7,156	5,963	3,880	2,083	833	175	235	423	360	52	31	26	26	0	225	650	0	650	0	6,603
11月	22,263	14,579	11,490	5,502	5,988	1,504	350	771	383	1,585	338	29	44	763	240	171	1,043	0	1,043	0	6,641
12月	5,340	1,757	1,437	1,047	390	241	71	160	10	79	0	20	15	44	0	0	438	0	438	0	3,145
1月	9,544	3,815	2,181	2,181	0	432	124	67	241	1,202	131	24	33	1,014	0	0	981	0	981	0	4,748
2月	5,520	1,613	1,280	1,280	0	242	60	34	148	91	60	19	12	0	0	0	655	0	655	0	3,252
3月	14,009	7,081	6,335	4,185	2,150	467	273	148	46	279	32	29	23	195	0	0	336	0	336	0	6,592
計	213,116	121,898	101,746	57,860	43,886	10,900	4,067	4,295	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	7,220	0	6,350	870	83,998

第Ⅱ章 開館10周年年度目までの評価結果

④平成26年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)													館外利用者						
		展示利用者 (a)					施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)					県民参加事業 取組品持ち の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ハブ博物館 ネットワーク 事業	ホームページ 利用者			
		常設展示 (券券数)	企画展示 (券券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者	生理学教室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	エコーデジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあむ 検定	講義・講演会 特別閲覧・ 写真撮影等	エコーデジタル 資料サービス利用					イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあむ 検定
4月	15,459	8,192	7,212	3,431	3,781	677	365	309	3	303	180	32	33	58	0	0	138	0	138	0	7,129
5月	22,489	13,144	11,057	5,380	5,677	1,128	519	443	166	959	89	27	37	806	0	0	713	0	713	0	8,632
6月	11,655	4,985	3,952	3,952	0	835	253	183	399	198	56	28	32	82	0	0	476	0	476	0	6,194
7月	23,357	12,700	11,368	5,145	6,223	1,108	467	439	202	224	141	19	38	26	0	0	1,071	0	263	808	9,586
8月	49,506	35,057	31,144	11,595	19,549	1,793	856	886	51	2,120	46	32	36	1,656	200	150	86	0	86	0	14,363
9月	13,396	7,350	6,062	3,104	2,958	597	219	216	162	691	35	13	24	619	0	0	97	0	97	0	5,949
10月	15,009	7,747	6,555	4,220	2,335	717	178	233	306	475	84	21	29	81	0	260	1,385	0	1,385	0	5,877
11月	16,495	10,081	7,912	3,826	4,086	926	242	422	262	1,243	231	24	38	715	164	71	286	0	286	0	6,128
12月	4,644	1,327	904	788	116	340	74	13	253	83	51	13	14	5	0	0	74	0	74	0	3,243
1月	9,038	2,980	1,559	1,559	0	295	123	45	127	1,126	83	22	33	988	0	0	149	0	149	0	5,909
2月	8,603	2,581	1,965	1,965	0	354	135	98	121	262	100	24	23	115	0	0	660	0	660	0	5,362
3月	10,973	3,744	2,931	2,154	777	564	178	86	300	249	43	23	22	161	0	0	413	0	413	0	6,816
計	200,624	109,888	92,621	47,119	45,502	9,334	3,609	3,373	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	0	4,740	808	85,188

⑤平成27年度

	総利用者	館内利用者 (a+b+c)													館外利用者						
		展示利用者 (a)					施設利用者 (b)			館内事業・サービス利用者 (c)					県民参加事業 取組品持ち の地ツアー	博学連携 出前授業 受講者	ハブ博物館 ネットワーク 事業	ホームページ 利用者			
		常設展示 (券券数)	企画展示 (券券数)	資料閲覧室 利用者	施設観察者	生理学教室 等利用者	講座・講演会 利用者	特別閲覧・ 写真撮影等	エコーデジタル 資料サービス利用	イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあむ 検定	講義・講演会 特別閲覧・ 写真撮影等	エコーデジタル 資料サービス利用					イベント 参加者	通信簿 ツアー	かいじあむ 検定
4月	17,439	10,409	8,945	3,773	5,172	1,132	404	722	6	332	235	22	40	35	0	0	98	0	98	0	6,932
5月	19,918	11,958	10,183	4,830	5,353	1,076	434	430	212	699	113	20	33	533	0	0	345	0	345	0	7,615
6月	9,761	3,513	2,348	2,348	0	599	155	173	271	566	118	18	21	409	0	0	519	0	519	0	5,729
7月	35,687	22,678	20,914	7,483	13,431	1,482	569	607	306	282	82	30	40	130	0	0	1,127	0	258	869	11,882
8月	91,729	72,402	66,161	20,939	45,222	3,105	1,287	1,749	69	3,136	36	26	43	2,181	300	550	189	0	189	0	19,138
9月	8,923	3,217	2,497	2,497	0	413	139	125	149	307	46	16	16	229	0	0	230	0	230	0	5,476
10月	13,119	5,789	5,145	4,181	964	453	173	174	106	191	53	21	30	87	0	0	1,072	0	1,072	0	6,258
11月	17,001	10,461	7,722	3,689	4,033	1,491	307	817	367	1,248	211	26	24	891	96	0	202	0	202	0	6,338
12月	3,706	1,012	843	843	0	123	65	28	30	46	0	10	24	12	0	0	15	0	15	0	2,679
1月	9,103	3,478	1,804	1,804	0	301	156	109	36	1,373	75	25	25	998	0	250	687	0	687	0	4,938
2月	9,231	3,003	2,040	2,040	0	517	168	107	242	446	302	31	20	93	0	0	520	0	520	0	5,708
3月	16,686	7,597	6,815	3,452	3,363	581	283	200	98	201	38	61	27	75	0	0	299	0	299	0	8,790
計	252,303	155,517	135,417	57,879	77,538	11,273	4,140	5,241	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	5,303	0	4,434	869	91,483

第3節 「各活動成果に対する数値評価・自己診断」による評価

表3(8～9ページ)の「評価項目」に対する数値評価と自己診断結果は次のとおりである。各事業活動ごとに【目標】・【成果】・【自己評価】の順でまとめている。

各種実績はいずれも平成23年度から平成27年度末までの成果である。

(1) 運営(ミュージアムマネジメント)及びミュージアムサービスについて

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果(達成率)】	【Ⅲ 自己評価】
①当該期間の総利用者数 【1,050,000人】	A	1・2・3	1,067,067人(101.6%)	・数値目標は達成したが、主に企画展の実績によるため、常設展の改善が求められる。
②博物館使命の認知度	C	1・2・3	・「通信簿ツアー」が運営改善に資していることは、リピーターを中心に認知が深まる。	・博物館使命の認知度が高まっているとは言えず、事業・評価双方とも改善が求められる。
③利用者視線の目標設定	B	1・2・3	・平成24年度に評価制度を改訂し、その達成にむけた運営努力を行った。評価によって明らかになった課題については、速やかに第三者委員会で協議を実施した。 ・改善状況については、「通信簿ツアー」でも一定の評価を得た。 ・利用者アンケートの内容は、毎朝の朝礼で職員間の共有化を図っている。	・評価状況へ随時に対応した事業の見直しと運営の適切化を継続している結果といえる。 ・評価から第三者委員会、実際の運営改善への流れを更に円滑にできるように体制づくりが求められる。
④目標達成状況の評価結果の公開	B・C	1・2・3	・評価制度と運営状況については、『年報』を印刷物・インターネット双方で公開している。	・博物館の評価制度の先進例として、評価制度に対して高い評価を得ている。
⑤県民参画事業の参加者数 【4,500人】	A	1・2・3	5,686人(126.4%)	・数値目標は達成。今後も企画内容の向上や、地域連携、常設展の普及促進につながる企画が求められる。

(2) 調査・研究について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果(達成率)】	【Ⅲ 自己評価】
①当館職員・共同研究者によって実施された調査・研究の一覧表化	B	1	・調査・研究の状況については、各年度の年報(およびホームページ)で情報発信している。	・富士山に関する信仰・芸術、馬産史、雑穀農耕起源、前近代の治水・利水、木食行と作仏をはじめとする学術的な蓄積が推進され、報告および企画展への活用によって県内外の理解と関心が高まった。
②研究紀要・調査報告書の作成・発行が実施されているか	B	2	・調査研究成果の公開として、毎年『研究紀要』を作成し、調査報告についても随時『報告書』を刊行している。 ・開館6～10周年の間に紀要5冊、報告書7冊を刊行した。	・毎年度『研究紀要』等を通じて、調査・研究の成果の発信がなされている。 ・個別研究の成果を公表することで、山梨の歴史に対する興味関心を深めることに貢献した。
③館主催・生涯学習推進センター主催講座の開催数	A	2	182回(1～5周年度201回)	・件数・利用者数ともに減少している。 ・調査・研究成果の公表という点から、館主催の「かいじあむ講座」の積極的な開催などを検討する必要がある。

④館職員の館外担当講座（出前講座も含む）結果の公開	A	2	167回（1～5周年度240回）	・件数は減少しているが、利用者数は大幅に増加している。 ・講座メニューの改善や、利用促進、利用時期の平準化などを検討する必要がある。
⑤館職員の研究実績の蓄積状況	A	3	146件（1～5周年度150件）	・目標はほぼ達成。今後も調査・研究の推進に努める必要がある。
⑥科研費ほか外部資金の導入などの共同調査・研究の実施	B	3	・科研費補助金が6件採択（1～5周年度：2件）	・外部資金の調達によって県費を補うことができるようになり、富士山世界文化遺産学術調査をはじめとする、国・市町村との調査研究の進展が図られた。
⑦県民参画による調査・研究が行われているか	B	3	・平成25～27年にかけて「みんなの研究」を実施。	・県民が関心を持つテーマへの補完や自主的な調査研究の推進に貢献した。

(3) 資料収集、保存及び活用について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①資料の収集点数	A	1	248,820点 (5周年度時点219,559点)	・資料の収集点数は1割程度の増加をみた。 ・資料収集は博物館の根幹であるため、今後も郷土資料の散逸防止のため、積極的な資料収集活動が求められる。
②個々の資料についての適切な保存・修復措置の実施	B	1	・「甲州道中身延詣図巻」、館所蔵重要文化財である「陶弘景聴松図」など、基幹資料の修復を実施した。 ・収集資料の保存環境の維持のためのデータを集積し、その結果をもとに、適切な保存措置を講じている。	・個人・市町村の文化財保存についての助言等を行うなど、館外の文化財保護にも貢献した。
③目録化（データベース化）済み資料の割合	A	2	206,121点 (5周年度時点200,762点)	・目録化割合は微増。目録化作業のための人員（予算）確保が求められる。
④資料の総利用数（閲覧・館外資料貸出など） 【3,500件】	A	2	3,537件（101.1%）	・総利用数はほぼ横ばい。 ・閲覧者増につながる県民の郷土研究の促進に関する施策を検討する必要がある。
⑤新たに展示やホームページに公開した資料点数	A	3	84,507点 (5周年度時点83,082点)	・公開化割合は微増。公開化作業のための人員（予算）確保が求められる。

(4) 展示について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①常設展示利用者数 【282,000人】	A	1	262,057人（92.9%）	・常設展示利用者は約7%目標を下回った。広報やギャラリートークなどの関連事業の見直し、学校利用のさらなる促進などを検討する必要がある。 ・常設展の魅力向上のためには、コミュニケーション能力やホスピタリティの改善が必要である。 ・常設展示の減少傾向は経年とともにやむを得ない面もあり、リニューアルなどの展示の刷新も視野に入れる必要がある。
②企画展利用者数 【220,000人】	A	1	244,512人（111.1%）	・目標値を1割上回る成果を出した。 ・家族で楽しめるものや、調査・研究の成果を公表するものなど、博物館経営と調査・研究機能双方を満たすため、バランス良く開催することを意識していく必要がある。
③博物館への学校利用件数・参加者数	A	2	631件 34,738人 (1～5周年年度 48,241人)	・学校利用者数は大幅な減少をみている。出前授業の利用者は増加しているので、来館につなげる仕掛けづくりが必要。
④展示をわかりやすく解説するワークシートの作成実施状況	CかB	2	・夏季企画展を中心にワークシートを作成。 ・県民参画事業では、常設展示に関するクイズ形式のワークシートを作成。	・企画展の見どころについて、わかりやすく理解するきっかけとなり、夏季企画展の集客と満足度増につながった。
⑤常設展示の印象に関するアンケート調査	CかB	3	・当該年度の常設展「満足」「やや満足」度95.4%（「満足」度74.5%）	・常設展示の改善は進んだものの、通信簿ツアーにおいては、導線などの設定に対する不満などが挙げられている。 ・満足度は高い水準で推移しているが、常設展については、リピーターの獲得や、新規利用者の開拓につながる展示の改善が求められる。
⑥企画内容や展示手法の満足度に関するアンケート調査	CかB	3	・当該期間最終年度の平成27年度夏季企画展で満足度95.5%。	・山梨にゆかりのあるテーマの展覧会と話題性や家族向けに利用しやすい展覧会を組み合わせる展開し、県民の知的的好奇心と集客双方に効果をあげることができた。
⑦常設展の年間展示資料点数（展示替え回数）	CかB	3	・ほぼ2カ月に1度の展示替えを実施（29回）。のべ1,543点の資料を展示替え。（1回あたり平均53.2点）	・通信簿ツアーでは定期的な展示替えについて評価する意見と、評価しない意見が二分しているので、肯定的評価につなげるように、広報や館内表示方法の改善に努める。
⑧常設展の来館者数増加に向けた取り組み	B	3	・平成23年度に体験型展示に「かいじあむ寺子屋」を新設。 ・平成26年3月から児童・生徒の観覧料の無料化。	・「かいじあむ寺子屋」の新設により、毎週日曜日に開催の体験イベントのソフト内容や対象人数が大幅に広がり、利用者サービスの向上につながった。 ・観覧料無料化によって、児童・生徒の学習機会が拡大した。

(5) 企画交流活動について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①年間企画交流活動数・参加者数 【74,750人】	A	1	71,088人（95.1%）	・若干目標値を下回った。事業ごとに達成度にバラつきがあるなか、「各種講演・講座等参加者」、「イベント参加者」、「ハブ博物館ネットワーク事業」は改善が必要である。 ・ただし現状の職員数で、回数（機会）の増加は、他の事業や博物館機能を損ねかねないので、イベントの質的な改善、広報の工夫などが求められる。
②博学連携に関する取り組み	B	2	・授業における展示利用のほか、夏休み自由研究プロジェクトの開催、出前講座の充実、子ども学芸員、未来の山梨の絵、ふるさとやまなし郷土学習コンクール展覧会の開催、インターン受け入れ、大学教育との連携など、幅広く学校との学習活動を推進した。 ・ティーチャーズクラブの利用拡大。	・出前事業は大幅増加であるものの、展示の学校利用は減少しているので、来館利用につながる施策が求められる。 ・ティーチャーズクラブの会員数は前回の総合評価時の2,100人から2,600人に拡大した。
③出前授業等の件数及び参加者数 【参加者数15,000人】	A	2	25,322人（168.8%）	・出前事業は大幅増加であるものの、展示の学校利用は減少しているので、来館利用につながる施策が求められる。
④貸し出し用キットの利用件数	A	2	平成27年度：12件	・学校が授業等で利用しやすいキットづくりが求められる。
⑤企画交流活動に関する取り組み	B	3	・かいじあむ寺子屋ひろばや子ども工房を中心に、イベントの内容や開催形態の改善を行い、開催中企画展の内容などを考慮しながら、常に新たな内容（ソフト）を取り入れながら展開している。	・全体としては微減だが、「各種講演・講座等参加者」、「イベント参加者」、「ハブ博物館ネットワーク事業」は改善が必要である。 ・現状の職員数で、回数（機会）の増加は、他の事業に影響が出かねないので、イベントの質的な改善が求められる。
⑥各種連携事業（大学・図書館・ミュージアム甲斐ネットワークなど）の実施上の工夫	B	3	・県民参画事業にあたって、県立図書館と共同事業とするなど連携を拡大している。 ・ミュージアム甲斐・ネットワークでは、県内各館にとって必要性が高い研修を実施。	・県立図書館と共同事業を行い、県内の児童・生徒の学習機会の向上に貢献した。 ・ミュージアム甲斐・ネットワークについては、研修会や文化財被災時の検討を行うなど、県内博物館のスキル向上とネットワーク強化に努めた。
⑦地域インデックスの活用策の企画・実行	B	3	常にフレッシュな情報が掲載されるように、コーナーの維持管理に努めた。	・地域インデックスでの情報をもとに県内各地の博物館等の利用者が増えているが、さらなる当コーナーの有効活用について検討し、ハブ博物館の機能拡大に努める必要がある。

(6) 施設の整備・管理について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①災害に対する職員の研修状況	B	1	・年1度の防災訓練を実施。 ・東日本大震災文化財レスキューに対する職員派遣を実施。	・集客施設としての災害時の対応能力の向上に努めた。 ・大規模災害時の文化財レスキューに即応する能力や救出資料に対する処置などについての経験を深めた。
②緊急の傷病者に対する職員の研修状況	B	1	・年1度の防災訓練を実施。	・防災訓練時には、AED研修を取り入れるなど、集客施設としての緊急時における救命活動対策を強化した。
③バリアフリー対策の実施状況	B	1	・常設展示グラフィックへの英語説明文の追加や、スマートフォンを活用した新音声ガイドの導入を実施した。	・外国人観光客の鑑賞利便性の向上をはじめ、利用者の鑑賞環境の改善を図った。
④資料保存についての措置を講じているか	B	1	・温湿度管理・空気質管理・照明・生物被害管理の観点から日常的な対応を実施している。	・県内における信頼できる資料保管先として、資料の寄贈・寄託の増加にもつながっている。ひいては、資料の収集促進を通じて、散逸の防止を推進している。
⑤施設開放件数・利用者数 【利用者数 69,750 人】	A	2	55,185 人 (79.1%)	・開館から年数を経たことから、施設視察者の減少はやむを得ないが、資料閲覧室利用者の減少は、県内の調査・研究、学習機会の向上・増加を促進していくうえで問題があるので、利用促進を図る施策が必要となる。
⑥公開承認施設に指定されているか	B	3	・平成24年(2012)7月2日に文化庁より公開承認施設の承認を受ける。	・企画展における重要文化財などの展示についての便宜性を確保しており、魅力的な企画展開催を担保している。
⑦展示施設の新規整備やその活用が図られているか	B	3	・平成23年度に、体験型展示に「かいじあむ寺子屋」を新設。	・毎週日曜日の体験イベント「かいじあむ寺子屋ひろば」を通じて、山梨の歴史や文化に関するメニューを、児童層を中心とした利用者を楽しんでもらっている。 ・ただし、利用者数は減少しており、リニューアルなど展示の刷新を検討する時期にきている。

(7) 情報の発信と公開について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①レファレンス対応件数	A	1	2,796 件 (5周年度時点 15,495 件)	・開館時の数値を含む5周年度時点の数値は比較対象にならないが、資料の利用や古文書の扱い、調査関係など、相談内容は多様化しており、それに対応してきている。
②ホームページアクセス数 【400,000 人】	A	2	430,653 人 (107.7%)	・目標値をクリアしているが、SNSの利用やスマートフォンからの閲覧対応など、利用形態の変化への対応が求められる。

③ホームページの更新・利用者ニーズに応じた内容の検討の実施	B	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス数も順調な伸び（1～5年度比107.7%）を示している。 ・日常的に速やかな情報提供を行っている。 ・平成26年（2014）6月25日からSNSの運用開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧数の順調な増加とともに、SNSの利用者も増え、インターネット上での情報発信（拡散）が進んでいる。 ・スマートフォンからの閲覧対応など、利用形態の変化への対応が求められる。
④発信した情報の媒体別の一覧表化	B	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや印刷広報の実施状況については、各年度『年報』に掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧数の順調な増加とともに、SNSの利用者も増え、インターネット上での情報発信（拡散）が進んでいる。ホームページとSNSで情報展開の使い分けを行っている。

(8) 市民参画について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①NPOやボランティア（協力会）との協働事業開催件数・参加者数 【参加者4,500人】	A	1	5,686人（126.4%）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を25%以上上回ることができた。 ・今後も質的な向上を図りつつ、地域連携や常設展利用者促進につながる事業が求められる。 ・また、NPOやボランティアなどの担い手の育成や、新たな協働スタイルの確立も必要となる。
②協力会（ボランティア）の登録数	A	1	67人（平成27年度末） （開館1～5年度70～80人）	<ul style="list-style-type: none"> ・協力会員数はほぼ横ばいながら、高齢化が進んでいるために、新規会員を増やす努力が必要である。 ・会員数の増加につながる、魅力的な協力会運営が求められる。 ・高齢者以外にも、学生や現役世代も博物館に参画できる枠組みを検討する必要がある。
③協力会の活動状況の一覧化	B	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年数回の運営委員会と総会の円滑な開催と、研修旅行などの事業を実施。 ・協力会だよりを年1回刊行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動は、博物館活動にとって大きな役割を担っている一方で、会員数は伸び悩んでいる。その対策を検討し、博物館のボランティアが生き甲斐ややりがいをもたらす魅力的な活動や事業の展開を進めていくことが不可欠である。 ・高齢者以外にも、学生や現役世代も博物館に参画できる枠組みを検討する必要がある。
④利用者による博物館評価の実施と運営上の反映の実施状況	BかC	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度以降、毎年2回程度の通信簿ツアーを実施し、その意見を踏まえて博物館のさまざまな運営・事業の改善に反映している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者参画型の博物館評価の手法である「通信簿ツアー」の定期的実施など、当館独自の事業を実施しており、博物館評価において利用者とのコミュニケーションが図られている。また、県内外から博物館評価の手法について一定の評価を得ている。

(9) 組織・人員について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①職員各自の資質向上に関わる研修の実施状況	B	1・3	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の資質向上のために、研修体制の充実化に努めている。 専門職員については、専門研修に参加できる体制を築き、毎年1～2名の学芸員が他機関が主催する1週間程度の長期研修に参加している。 職員の接遇・解説スキルの向上や展示内容の共有化のために、館内研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期研修を通じて、学芸員の能力向上と、最新のノウハウの導入に努めている。 当館独自の展示交流員制度は、当館のアンケートなどにおける評価上も、好印象のものが多く、博物館自体が「敷居が高い」と思われている現状と、「交流」「接遇」の面で、まれに不満足を訴える意見も見られる。このため、展示交流など利用者に対する博物館が目指すものの再確認や、さらなる「交流」力やホスピタリティの向上を図る必要がある。
②第三者機関の意見の運営への反映状況	B	2・3	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度以降、毎年2回程度の通信簿ツアーを実施し、その意見を踏まえて博物館のさまざまな運営・事業の改善に反映している。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者参画型の博物館評価の手法である「通信簿ツアー」の定期的実施など、当館独自の事業を実施しており、博物館評価において利用者とのコミュニケーションが図られている。また、県内外から博物館評価の手法について一定の評価を得ている。

(10) 外部支援と連携について

【Ⅰ 目標・評価項目】	評価方法	対応する使命	【Ⅱ 成果（達成率）】	【Ⅲ 自己評価】
①館の運営のために外部支援体制の導入に努めたか	B	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> 山梨交通、山梨中央銀行といった県内有力企業の広報協力を定期的に依頼している。 企画展は県内マスコミとの共催を基軸に推進している。 企画展開催時は関連団体との連携を推進している。 科研費助成事業が6件採択。 	<ul style="list-style-type: none"> マスコミや県内大手企業との連携により、広報力が格段に上昇した。 外部資金の調達によって県費を補うことができようになり、富士山世界文化遺産学術調査をはじめとする、国・市町村との調査・研究の進展が図られた。
②県内外の博物館との連携の実施状況	B	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> 企画展では平成24年度のクニマス展（京都大学総合博物館）、黄金の国々展（新潟県立歴史博物館）、平成27年度の富士山展（静岡県立美術館）などが他館との共催事業として実施している。 その他、県内外の博物館・研究機関と協力・連携による企画展等の事業を実施。 平成25年7月に全国歴史民俗系博物館協議会の設立に参加。 大韓民国の国立清州博物館との学術研究交流協定を継続。 	<ul style="list-style-type: none"> 他館との連携によって、より優れた調査・研究や、企画展の資料の出品につながり、魅力的な企画展の実施につながった。
③文化財レスキューなど、当館が地域社会を支援する体制の整備に努めたか	B	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の際には、日本博物館協会と連携して、宮城県と岩手県に職員を派遣した。 県内においては、当館において文化財救援活動に関するシンボル展を開催したほか、ミュージアム甲斐・ネットワーク参加館を中心に連携を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財レスキューに関する館職員の意識と知識、経験が高まった。また、県内での大規模災害発生時の連絡・協力体制の構築に努めている。

第4節 「通信簿ツアー」による評価

■評価の方法

- ・「通信簿ツアー」とは、利用者の視点から県立博物館を評価する（通信簿をつける）というイベントである。実際のツアーの運営にあたっては、県民参画事業として県民の立場であるNPOに委託し、評価項目の選定から実施、結果のとりまとめなど、評価事業全般を県立博物館と民間の協働で実施している。
- ・「通信簿ツアー」では、評価項目を盛り込んだ「博物館の通信簿」を来館利用者に配付してツアーに参加してもらい、ツアー参加者は「通信簿」を持って館内をめぐりながら、回答を記入していく方式となっている。
- ・ツアー参加者によって記入された「通信簿」は回収し、記入された利用者からの回答を集計して各年度ごとの『年報』に掲載（公開）している。「通信簿」に記された利用者の生の声は、積極的に県立博物館の事業・運営の改善に取り入れていくことを目的としている。
- ・選択的設問だけでなく、記述式部分も多いため、定量的でない評価が期待できる。

■評価の対象

- ・評価の対象となる事項は、展示やイベントをはじめ、県立博物館へのアクセス、館内の快適さ、資料閲覧室・地域インデックス（図書室・地域情報コーナー）、ミュージアムショップ、レストラン、お庭（屋外展示）など、利用者に対するサービスすべての分野が対象となっている。回答は選択式と記述式の折衷で、設問は展示だけでなく全般に及び100項目以上設定されている。

■実施状況

- ・平成18年度以降、毎年1～2回の割合で実施。
- ・近年は、お盆期間直近の土日、県民の日（11月20日）に実施している。

■評価者数

- ・1,577人（平成23～27年度）

■評価の状況

- ・通信簿ツアーは、県立博物館開館1周年を記念して平成18年（2006）10月15日（日）に初開催して以来、毎年継続的に実施してことで、さまざまな改善を図るための問題意識が提示され、また県立博物館の「強み」と「弱み」が明確に示されてきた。
- ・設問が多く、博物館の運営・事業全般に対する生の声を得ることができる一方で、利用者の負担になる側面が指摘されることがある。
- ・一方で、1～5周年度と比較して、「通信簿ツアー」自体にリピーターが増え、「評価」が浸透した面もある。
- ・平成27年8月の通信簿ツアーでは、多くの利用者を集めた「大化石展」開催中だったこともあり多様な意見が見られ、また車いす利用者の通行困難など、多客時だからこそ判明するバリアフリー上の問題なども明らかになった。
- ・上記のバリアフリーの問題や、休憩用の椅子の配置や空調の効き具合など、利用状況や利用者によって意見も多様であり、改善点も一面的でなく総合的に考慮する必要があることが指摘できる。
- ・「通信簿ツアー」の具体的な評価状況については、各年度『年報』を参照。

第5節 総合評価と今後の課題

■各活動評価に対する評価

(1) 運営（ミュージアムマネジメント）及びミュージアムサービスについて

- ・児童・生徒の入館料無料化が入館者数増加にどれだけ影響を与えたか、数値的に評価することも必要である。
- ・県立博物館へさらなる理解を深め、利用者増につなげることが重要である。一般の利用者にとって、「すごいところ」よりも「行ってみたいところ」にしていく努力が必要となる。また、展覧会のタイトルなどにも工夫が必要である。
- ・博物館の評価が入館者数による傾向は好ましくないが、現状として否めない面もある。最近では海外からの旅行者が増加しており、外国人に訴えるテーマや解説関係の外国語対応なども考慮する余地がある。
- ・常設展の利用者は目標に達しなかったが、今後も目標値は従来の平均を上回るものにすべきである。今後下降していくことは仕方ないと考えていると思われる。
- ・博物館10年の歴史は、当初からのミッションからブレずにやって来られた歩みだと思う。派手な事業ではなく地味な積み重ねであり、評価されにくいところである。
- ・山梨県の人口規模の割に、県立博物館の実績は健闘しているとも言える。今後も10年先、100年先に生きてくる研究や展示を推進してほしい。これからも、山梨県が進もうとしている方向性を先取りするような展示をどんどん開催するべきだ。

(2) 調査・研究について

- ・富士山は県立博物館の第二期計画でも重要な位置づけであり、富士山展示の常設化の実現に向けて、学術研究の推進にあたってほしい。
- ・職員の研究活動の推進も、大変だが大切なことである。現在の研究傾向としては、様々な分野にわたるグループ研究が主流となっている。色々な分野が交流しながら研究にあたっていけば、素晴らしい成果が生まれるのではないかな。
- ・研究成果を展示に反映していくことは多くの意義があり、次の研究費獲得や県立博物館の評価にもつながる。その成果についての対外的なアピールも積極的にすべきだ。
- ・科研費については、これまでの県立博物館の研究実績からすれば、大型の研究費を獲得することを計画していくことも今後は検討していくべきである。
- ・富士山総合学術調査については、調査が進む過程で判明した新たな課題もあり、また学問的裏付けがあってこそ文化遺産としての価値が高まるので、継続して実施していくべきである。また、県立博物館としても、学術的な側面から支援を続けてほしい。

(3) 資料収集、保存及び活用について

- ・「富嶽三十六景」など、県立博物館の収蔵品は素晴らしいものがあるのに、あまり周知されていない面がある。収蔵品の理解促進に関する施策も必要ではないかな。

(4) 展示について

- ・入館者数が少ない展示でも、素晴らしい内容のものがあるということを知ってもらえるような企画としなくてはならない。
- ・その一方で、大勢に見てもらえる「行きたい」と思わせる展示を開催していくことも重要である。
- ・常設展の入館者数減少の背景が気にかかる。「体験型展示」について、次世代を取り込むようなあり方が望ましい。
- ・展示への来館者の関心を高めるには、県内外を問わずいかに「共感」を得るかという側面がある。新たな来館者獲得のためにも、どのように訴えるかを検討したほうが良い。
- ・来館者を増やしていくためには、難しい内容をやさしく伝える工夫を、さらに凝らしていく必要がある。子ども向けパンフレットなど、発達段階に応じた解説についても考慮する必要がある。

(5) 企画交流活動について

- ・ある程度やるべきことをやり尽くしてきた感があるが、まだ可能性があるのは教育活動である。高齢者ならば大学主催の講座に参加している層の取り込み、学校教育であれば授業に組み込む工夫を更に推進する必要がある。

また、大学生の博物館離れにも具体的な方策が必要だ。

- ・出前講座も良いが、副読本との連携や教育旅行の誘致などにより、常設展に来てもらう仕掛けづくりが重要である。

(6) 施設の整備・管理について

- ・常設展の利用者減少をどのように捉えるかだが、今後の経年を考えるとリニューアルの検討につなげることも必要だ。

(7) 情報の発信と公開について

- ・資料をホームページで紹介することで、実物を見たいという人が増加したことがあるので、もっとホームページを活用していくべきである。
- ・マスコミとの連携によって広報力は格段にアップしている面があるので、今後も連携強化に取り組むべきである。
- ・広報については、マスコミを使っても効果的でない場合もある。場合によっては、広報の対象を「マス」でなく「点」で考えることも手法の一つである。
- ・新聞・テレビ離れが進んでいる世代に対して、有効な広報手段を検討するべきである。
- ・博物館での企画展やイベントなど、地域に伝わっていないケースが多いので、ボランティアの活用や学芸員の出張など、足で稼ぐ広報も効果があるのではないか。

(8) 市民参画について

- ・事業全体の参加者が増えているのは大事だが、担い手となるボランティア数の減少の要因を考えることは大変重要だと思われる。
- ・県立博物館には力があるのだから、最初から目標を低く設定しないほうが良い。結果的に目標に及ばないのは仕方ないが、「成長する博物館」「交流」を考えるならば、やはり目標は高く設定すべきである。目標が低いことが問題ではなく、低く設定したうえで結果が及ばなかった場合が問題である。
- ・NPOをはじめ、学習意欲の高い人たちなど多くの力を県立博物館に引き寄せて、合同してやっていく視点が一番必要ではないかと思う。協会にも参加してもらう幅を増やしていけると良い。

(9) 組織・人員について

- ・地域での県立博物館の評価を聞いてみると、学芸員の対応は良いが地味であると受け取られている面がある。調査研究は良くやっているので、教育と交流についてはより検討を深めるべきである。

(10) 外部支援と連携について

- ・文化財レスキューに関するネットワーク構築は良い取り組みである。文化財レスキューには、地域の特性はあっても全国共通のスタイルが必要である。多数の文化財がある山梨がその見本となるマニュアルを作るべきである。
- ・県立図書館と相互協力関係を構築することは大切である。お互いに機能補完をしたり、窓口的な役割を果たすことが双方ともメリットとなる。
- ・世界遺産センターだけでは、富士山の研究を推進していく体制や蓄積が足りない。県立博物館のような実績のある組織を中核に進めていかなければならない。県立博物館でも自然分野の研究は難しいので、既存施設間の連携も重要だ。連携という言葉は綺麗だが、実際は容易ではない。

■評価全体について

- ・評価項目が細分化されすぎている傾向があるので、そのあたりの整理が必要だ。重点目標に絞って、今後の問題解決につながるような評価方法にしてはどうか。
- ・評価の「見せ方」を改善する必要がある。数値がどのように評価へつながっているか、わかりやすくすると良い。評価の受け取り手の側に立って、「自画自賛」でない評価でなければならない。
- ・「自己評価」を点数で評価をすることも一つ的手段だと思われる。
- ・数値評価については、数量だけではかれる内容ばかりではないので、その数値の伸びや減少の背景をどう捉えるか、その分析が重要である。
- ・実績の数値が独り歩きしないために、自己評価もしっかり行わなければならない。

山梨県立博物館総合評価報告書

— 開館10周年年度目までにおける評価結果 —

発行日 2017（平成 29）年 3 月 26 日
編集・発行 山梨県立博物館
〒406-0801
山梨県笛吹市御坂町成田 1501-1
TEL 055（261）2631
印刷 株式会社 内田印刷所
